国際会議から　第1回アーヘン国際鉄道シンポジウム（IRSA2017）

菅原能生
車両構造技術研究部
走り装置研究室
主任研究員（上級）

本国際会議は今回初めて開催された会議です。主催は，ドイツのアーヘン工科大学・鉄道研究所（RCR）で，募集要項によれば，対象範囲は鉄道の運転，安全性・安定性，自動運転，騒音低減，省エネルギーなどとなっています。実際には，運転・エネルギー・保守などの効率化につながる件名，およびITの活用が多い印象を受けました。

会議では，基調講演のほかに15のセッションで合計50件強の発表があり，そのうち日本からの発表は筆者も含めて5件でした。参加者数は名簿によれば約160名で，そのうち日本からの参加者は約10名でした。主にドイツおよびドイツ語圏からの参加者が多い印象を受けました。発表は英語もしくはドイツ語で行われ，ドイツ語で発表の際には英語の同時通訳がつきます。

鉄道総研からは筆者のみが参加し，新幹線車両向けの上下制振システムに関する発表を行いました。発表後にいくつか質問をいただきましたが，そのうち，「制御あり・なしの差は，体感で実際にわかるのか？」という質問があり，「乗り心地評価指標でも差が認められ，実際に体感でも判別が可能」と回答しました。この質問はほかのプレゼンテーションでもいただいたことがあるのですが，グラフや乗り心地評価指標の数値以外で，何か直感的な方法で乗り心地の差を伝えるよい方法はないものかと改めて思いました。

会場となったアーヘン工科大学 Super C 棟

アーヘン中央駅

開催都市のアーヘンは，ドイツの中でもかなり西寄りにあり，ベルギー・オランダとの国境に位置しています。空港はありませんが，ブリュッセルからアーヘン中央駅までICEやTHALYSなどの高速列車で1時間強で到着でき，アクセスは比較的容易でした。

正式名称：The first international Railway Symposium Aachen（IRSA 2017）
開 催 国：ドイツ（アーヘン）
期　　間：2017/11/28－30
主　　催：アーヘン工科大学　鉄道研究所（RCR：Research Center Railways）
開催頻度：2年に1回（予定）
次回開催予定：2019年11月　ドイツ
ホームページURL：http：//www.irsa.rwth-aachen.de/